

人を対象とする生命科学・医学系研究に関する情報の公開について

当センターでは、下記の研究を実施しております。この研究は、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に基づいて、研究対象者となられる方から同意をいただくことに代えて、情報を公開することにより実施しております。この研究に関するお問い合わせ、研究参加への拒否依頼などがありましたら、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

記

研究機関名	地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪母子医療センター
研究課題名	小児炎症性腸疾患における血清カルプロテクチンおよびロイシンリッチ α -2糖タンパク質 (LRG) の有用性に関する研究
研究代表者 氏名・所属機関	水落 建輝・久留米大学医学部小児科学講座
研究責任者 氏名・所属部署	地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪母子医療センター 恵谷 ゆり・消化器内分泌科
研究対象者 (研究対象者等が自身が対象者であると容易に知り得るように記載)	先行研究である「小児腸疾患診断における新規血清マーカーACP353 の臨床的有用性に関する検討」の研究に登録し、検体の2次利用に関して書面による同意を得た、17歳未満の患者さんと健常児
研究期間	研究実施許可後～令和7年9月30日
研究目的・方法 (意義、目的、方法、試料等の二次利用等)	<p><研究目的></p> <p>小児炎症性腸疾患患者の血清カルプロテクチン・LRGを測定し、診療情報を合わせて解析することにより、小児炎症性腸疾患の病態や重症度の判定、今後の治療方針などに有用であるかを検討します。</p> <p><研究方法></p> <p>先行研究に参加した施設に保管されている凍結保存血清を2次利用します。</p> <p>市販のELISAキットで、血清カルプロテクチンとLRGを測定します。測定、データの解析は久留米大学小児科学講座にて行います。</p> <p>研究期間内に得られた、小児炎症性腸疾患患者とその他腸疾患、慢性炎症疾患コントロール(膠原病など)、健常コントロール群との血清カルプロテクチン、LRG分析結果に臨床情報を加えて比較検討します。また、クローン病と潰瘍性大腸炎での比較や、その他腸疾患・慢性炎症性疾患・健常児と比較検討し、血清カルプロテクチン、LRGの疾患特異性をより詳細に検討します。</p> <p><データの二次利用について></p> <p>本研究で得られたデータ(試料・情報)を別の研究に利用する可能性があります。その場合の試料及び情報等は本研究と同様に匿名化し、個人情報の保護を図ります。</p>

